

整備事業
I 産地競争力の強化を目的とする取組用

(茨城県 平成25年度)

市町村名	事業実施主体名	メニュー① (対象作物・畜種等名)①	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績①	メニュー② (対象作物・畜種等名)②	成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況②						成果目標の具体的な実績②	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考	
				計画時 (平成22年)	1年後 (平成23年)	2年後 (平成24年)	3年後 (平成25年)	目標値 (平成25年)	達成率				計画時 (平成22年)	1年後 (平成23年)	2年後 (平成24年)	3年後 (平成25年)	目標値 (平成25年)	達成率				交付金	都道府県費	市町村費	その他					
																														当該品目の10aあたり平均収量 (t/10a)
下妻市	常総ひかり農業協同組合	野菜(白菜、ブロッコリー、レタス、青梗菜、キャベツ、みず菜、ホウレンソウ、ネギ、レイシ、小松菜)	当該品目の10aあたり収量を18%以上増加	6467.49kg/10a	5581.0kg/10a	6034.0kg/10a	7442.76kg/10a	-44.4%	収量は6034kg/10aに減少し、成果目標を大きく下回った。	野菜(白菜、ブロッコリー、レタス、青梗菜、キャベツ、みず菜、ホウレンソウ、ネギ、レイシ、小松菜)	当該品目の全出荷量に占める契約出荷割合を35ポイント以上増加	契約取引割合 (t/10a)	52.5%	62.5%	73.0%	68.5%	87.5%	45.7%	契約取引割合は16%増加したが、成果目標は達成できなかった。	・集出荷貯蔵施設1棟(480㎡) ・真空予冷施設1棟	103,950,000	37,820,000	0	0	66,130,000	H24.9.30	・真空予冷施設の導入により、新規栽培者の増加等から作付面積は大幅に増加したものの、相対的な栽培技術の低下等から、10aあたりの収量は成果目標を大きく下回った。 また、目標年度である平成25年は、夏季の高湿や台風の影響、冬季の早期寒波到来、白菜の黒斑細菌病多発等により対象品目の収量が低下した。 今後は、収量の向上と安定化に向けた取組が急務である。 ・予冷施設の整備により、特に夏季の品質が向上し、契約取引の増加に繋がったものの、原簿事故に伴う風評等の影響から、成果目標を達成することはできなかった。	・栽培技術の低下や異常気象・病害虫等の影響により収量が減少したことから、今後は栽培技術講習会の定期開催など、収量の向上と安定化に向けた取組を一層進めるとともに、露地栽培から施設栽培(周年栽培)への転換を推進し、天候等に左右されにくい栽培体系の確立を図る。 ・契約取引の割合は増加傾向にあり、今後は更なる品質の向上により対象品目のブランド化を図り、一層の向上を推進する。 また、取引先に合わせた荷姿の調整等、実需者ニーズに対応した出荷体制の整備に取り組みすることで、契約取引割合の向上に努めていく。		
牛久市	電ヶ崎市農業協同組合	野菜(ダイコン)	当該品目の全出荷量に占める上位規格の割合を15.5%以上増加	66.2%	70.64%	61.09%	81.70%	-33.0%	上位規格(A品2L)の割合は、計画時と比較して5.11%減少し、成果目標を達成することはできなかった。	野菜(ダイコン)	当該品目の単位面積あたりの労働時間を42.7%削減	単位面積あたりの労働時間	87.29時間/10a	56時間/10a	56時間/10a	50時間/10a	83.9%	10a当たりの労働時間は、計画時と比較して36%削減されたが、成果目標には及ばなかった。	・ダイコン洗浄選別施設1棟(3,000ヶ/日)	59,745,000	28,450,000	0	0	31,295,000	H24.8.31	・新規参入者及び耕作放棄等を活用した栽培面積の増加により、作付指等が行き渡らなかったことに加え、低湿による生育の遅れ等の理由から、成果目標は未達成となっているが、施設は適切に運用されており、生産量の拡大に寄与している。 今後は、生産部内で、生産管理に関する研修や指導を徹底する必要がある。	・施設は適切に運用されているが、成果目標の指標となっている品質等について一層の改善を図る必要がある。 今後は、生産管理に関する研修や指導を通じて生産計画の精度及び栽培技術の向上を図り、適期収穫の改善に努めるとともに、新規参入者等を中心に労働時間の更なる削減を進めていく。			
結城市	北つくば農業協同組合	野菜(白菜、キャベツ、ネギ、レタス、トウモロコシ、みつば等)	当該品目の全出荷量に占めるブランド野菜の割合を65%以上増加	31.42%	77.76%	82.02%	96.42%	77.8%	出荷量の約半分を占める秋冬白菜でブランド化が図られるなど、取組は確実に進んでいるが、全体の割合は82.02%に留まった。	野菜(白菜、キャベツ、ネギ、レタス、トウモロコシ、みつば等)	当該品目の全出荷量に占める契約出荷割合の33ポイント以上増加	全出荷量に占める契約取引の割合	48.42%	16.50%	29.94%	81.50%	-55.9%	全出荷量に占める契約取引割合は、計画時と比較して18.48%減少した。	・集出荷貯蔵施設1棟(1,388㎡) ・真空予冷施設1棟 ・保冷庫(138㎡)	267,750,000	124,908,000	0	0	142,842,000	H25.2.26	・出荷量の約半分を占める秋冬白菜でブランド化が図られるなど、取組は確実に進んでいるが、契約出荷割合については、福島第一原発事故に伴う風評の影響により低迷しており、大幅な改善が必要である。 今後は、青果物の一層の高品質化に加え、市場・実需者と連携して積極的なPRに努めることで、契約取引先の拡大を図るとともに、各品目毎のブランド野菜化を一層推進する。	・本事業の実施により、予冷施設での貯蔵保持が可能となり、一層の高品質化が図られたことと、秋冬野菜の主力品目である白菜のブランド化が推進されていること等から、総出荷量は年々増加傾向にある。 ・福島第一原発事故の影響により、震災後の契約取引割合は0%に落ち込んでしまっていたが、安全・安心の確保と風評の払拭に努めることで、市場や実需者の信頼を回復しつつあり、今後も一層の契約取引の増加と新規拡大を進めていく。			
都道府県平均達成率	12.3%	総合所見	<p>・下妻市の取組については、施設整備により、作付面積の拡大が可能となり全体の収穫量は増加したものの、新規栽培者の技術不足や異常気象等の理由から、10a当たりの収量は減少した。また、クレーン率が減少するとともに市場評価が向上し、契約取引の増加に繋がった。 今後は、栽培講習会の定期開催など、収量の向上と安定化に向けた取組とともに、露地栽培から施設周年栽培への転換を推進し、天候等に左右されにくい栽培体系の確立を図っていく。また、取引先に合わせた荷姿の調整等、実需者ニーズに対応した出荷体制の整備により、契約取引割合の向上に努めていく。</p> <p>・牛久市の取組については、平成25年度は春作の肥多過による主力階級の発生割合減少と秋作の台風・病害虫の影響により秀品割合は低下したが、施設整備により労働時間の削減は着実に図られている。 今後は、生産管理に関する研修や指導を通じて生産計画の精度及び栽培技術の向上を図り、適期収穫の徹底等による秀品率の改善には引き続き努めるとともに、新規参入者等を中心に労働時間の更なる削減を進めていく。</p> <p>・結城市の取組については、出荷量の半分を占める白菜でブランド化が図られたものの、契約取引は福島第一原子力発電所の事故によって0%からの再スタートとなり、成果目標を大きく下回った。 今後は、青果物の一層の高品質化と安全・安心の確保に加えて、市場・実需者と連携した積極的なPRによる風評の払拭に努めることで、契約取引先の拡大を図るとともに、各品目毎のブランド野菜化を一層推進する。 総合的には、加工・業務向けを含めた契約取引の一層の拡大推進に加え、栽培管理の徹底により高品質化・収量増加を図り、成果目標の達成に向けた産地の改善が必要である。</p>																											